

市場環境に係る基礎情報収集調査

f. 市場性分析 (1/2)

- **政策との整合性** : 「NCDs予防・抑制のためのマルチセクター行動計画 (2018-2025年)」が示す多様なセクターが協働してNCDsの発症を予防・抑制する体制整備の方向性に合致。「国家保健医療政策 (2008年)」が示す、公的医療機関、民間、NGO、海外支援団体の連携を通じて、保健医療サービスを公平に手ごろな価格で享受できるよう全国民に届けるという政策目標に合致。
- **需要との整合性** : 近年では全国の死因割合の7割以上をNCDsが占めている。ラッシャヒ県でも増加傾向がみられるNCDsの医療ニーズ、及び薬局から医療機関への患者紹介の実情にも合致している。既存の患者紹介の慣習への配慮・工夫は必要だが、NCDs重症化前の早期発見ニーズは、今後も一定の需要が見込まれる。
- **法規との適合性** : 自覚症状を基に緊急度判断プロトコルを介したリスク判断のみで医療判断を要さず、DGDAガイドラインでモデル薬局に認められている医療行為の範囲内で対応が可能。
- **類似商品との比較優位性** : 最小限の使用デバイスと非医療従事者でも提供可能である点 (簡易性)、リスク判断と病院紹介を即時に行うことができる点 (迅速性)、受診要否を簡易チェックし、NCDs重症化リスクが高く受診の必要な患者のみを限られた医療資源に繋ぐ点 (合理性) で優位性が高い。
- **社会的貢献 (開発効果)** : NCDsの早期発見により重症化による医療負担 (医療機関の患者受入負担、患者の治療費負担) の軽減に資する。政策的なNCDsの予防・抑制の取り組みを推進する中で、薬局・医療機関の連携を促進し、公的医療体制を補完する。

市場環境に係る基礎情報収集調査

f. 市場性分析 (2/2)

【課題・留意点】

- リスクアセスメントシステムを通じた医療機関への患者紹介について、現行の患者紹介ルートと干渉しないような工夫や配慮が必要。また、現行の慣習として運用されている紹介手順や患者紹介当時者間の利害関係等についても配慮したシステム導入が必要。
- 簡易性や汎用性優位を活かしたラッシャヒ県外への対象エリア拡大に際しては、まずは本リスクアセスメントシステムの品質・サービス向上を図り、既導入エリアでの薬局・民間医療機関、及び患者の信頼醸成を固めることが重要となる。足元を固めた後は、例えばCMED等の他エリアで展開する事業者との協業可能性も検討しながら、全国で課題が顕在化しているNCDsリスクの中・低所得者層へのアウトリーチ拡大を図ることも必要。
- システムを導入する薬局や民間医療機関の選定にあたっては、①適切な医療機関へのアクセス（機関までの距離・交通手段、医療機関への信頼性）、②適切な医療サービスへのアクセス（経済的負担（診察・治療費））、③提供可能な医療サービスの質（特に郡・村落の医療機関）の面からの実現可能性の検討も求められる。
- 本リスクアセスメントシステムの普及を図る際は、例えばDGDAに未登録の薬局には、登録をサービス提供の条件とする等の薬局の公的登録を促進する仕組みを組み込むことも重要。